新居浜弁 最高!? 再考 PART11

「こぶとりじいさん」を 新居浜弁で語ってみると…

※ストーリーは編集部で一部脚色しています

2年ぶり、久々の新居浜弁は「こぶとりじいいさん」でいこわい。
まあ、西条の人もだいたいわかると思うけん、読んでみてん。
「を」の発音は、もちろん「wo」で読んでよ。

とうの むかしの はなし いおわい。
ずいぶん昔の話を話しましょう。

右の ほっぺたに べらでかい『できもん』が あるんじゃけど
右のほっぺたに大きな『コブ』があるのだけれども、

あんきに しよる おじいはんが おったんよ。
気楽に暮らしている、おじいさんがいました。

おじいはんは できもん は なーんちゃ きにせんと
おじいさんは『コブ』のことは何も気にせず、

ひしてじゅう しごと しよったし みんなにも やさしかったんよ。
1日中仕事をしていたし、みんなにも優しく接していました。

ほんで おんなじ村に もうひとり 左の ほっぺたに まっついの
そして同じ村には、もう一人、左のほっぺたに、同じような

『できもん』がある おじいはんも おったんよ。
『コブ』があるおじいさんもいました。

こっちの おじいはんは こすーて きざかい するわ
こちらのおじいさんは、ずるくて、嫌がらせをするし、

ひとのもん がめるわ まあ みんなに 嫌われとったわい。
人の物を盗むし、とてもみんなから嫌われていました。

できもんを いっつも いろいながら
『コブ』をいつも触りながら

「よいよう まがるんじゃ！ なんとかせーや！」ゆうて
「とても邪魔だ! なんとかしろ!」と言って

人に あたりよったけん。村人らも たまらんわね。
他人に八つ当たりしていました。村人たちも耐えられません。

ある日 あんきな おじーはんは
ある日、気のいいおじいさんは

森で 仕事おいての かえりしな ざあざあぶりに なったんよ。
森で仕事を終えて、帰り際に土砂降りになってしまいました。

「いきしなも ひしてじゅうも 晴れとったのにのぉ。いかんねや」
「来る時も、今日1日も、晴れていたのに。まいったな」

おじいはんは 山小屋で 雨宿り しよったら 寝てしもたんよ。
おじいさんは山小屋で雨宿りをしていると、寝てしまいました。

寝よったら なんか しらんけんど 笛の音が 流れてきたんよ。
寝ていると、どこからともなく、笛の音が流れてきました。

「どっから 聞こえよんじゃろ？」
「どこから聞こえてくるんだろう?」

目ぇあけた おじいはんが 音するほうへ 行ったら たまげよったわい。
目を覚ましたおじいさんが、音の鳴るほうへ行ってみると、びっくりしました。

「うわっ！鬼が おどりよるげや！」
「うわっ! 鬼が踊っているぞ!」

鬼らは 飲んで うとーて、宴会しよんよ。
鬼たちは(酒を)飲んで、歌って、宴会をしていました。

最初は びびっとった おじいはんも
最初は怖がっていたおじいさんも

「あれ？ このうた しっとるけん わしも ちゅうで 踊れるげや」
「あれ? この歌、知っているぞ。私も(何も見ずに)踊れるぞ」

ゆーて おじたりせんと 鬼と 一緒に 踊りだしたんよ。
と言って、恐れずに鬼と一緒に踊り出しました。

急に来た おじいはんの 踊りに 鬼も 目え まかしよったわい。
急にやってきたおじいさんの踊りに、鬼もびっくりした様子です。

「おじいはん、やるねや」
「おじいさん、(踊りが)うまいですね」

おじいはんの 踊りが うまいけん
おじいさんの踊りが上手なので、

いっつも あらくたい 鬼らも 一緒に ひろきまわりよった。
いつもは荒っぽい鬼たちも、一緒になってふざけ回って遊んでいました。

ほんで よつべはって 踊りよったら 朝が来てしもた。
そして、夜遅くまで踊っていたら、朝になってしまいました。

朝がきたら 鬼らは 住みかに 戻らないかん。
朝になると、鬼たちは(自分の)住みかに戻らないといけません。

「おじいはん、今晩も踊りにこんかい。それまで その ほてでかい
「おじいさん、今晩も踊りにおいでよ。それまで、その大きな

できもん わしが 預かっといたろ。今晩 来たら 返してやるけんの」
『コブ』を、私が預かっておこう。今晩また時に、返してあげよう」

そんなん いいもて 鬼は おじいはんの できもん いきなり むしくってしもた。
そんなことを言いながら、おじいさんの『コブ』をいきなり取ってしまいました。

なんてかんてて おじいはんも たまげて ほっぺた さわりもて
どうしたものか、おじいさんもびっくりして、ほっぺたを触りながら

「できもん むしくってくれたげや。ばら うれしい！」と 思いよったんよ。
「『コブ』を取ってくれた。これはうれしいぞ!」と、心の中で思いました。

なーんちゃ 痛ないし 血いも でんまま むしくってくれたがね。
何も痛く無いし、血も出ないまま、『コブ』を取ってくれました。

「ほしたら いんでこーわい」
「それでは、(家に)帰ります」

そなんゆうて おじいはんが 村へ もんてきたんよ。
と言って、おじいさんは村へ戻ってきました。

こすい おじいはんが まあ たまげたけん。
ずるいおじいさんが、まあ、びっくりしました。

「お前 どなんして できもん むしくったんぞお！」
「お前、どうやって『コブ』を取ったんだ!」

「ほれがのぉ…」
「それがな…」

あんきな おじいはんは きにょうの ばんのことを ゆうたんよ。
気のいいおじいさんは昨日の夜のことを話しました。

「しゃが 言うなや。鬼が むしくって くれたじゃあ？」
「嘘をつくな! 鬼が取ってくれただと?」

ほやけんど こすい おじいはんは
だけど、ずるいおじいさんは

「わしも むしくって もろちゃろ」ゆーて 夜に 森に いきよったわい。
「わしも(コブを)取ってもらおう」と言って、夜に森に行きました。

ちいとない したら 笛の音が 聞こえて きての。
しばらくすると、笛の音が聞こえてきました。

「あそこで おどったら えんじゃのぉ」
「あそこで踊れば いいんんだな」

こすい おじいはんは 踊りよる 鬼んとこに いったんよ。
ずるいおじいさんは、踊っている鬼のところに行きました。

ほやけど がいげーな 鬼見たら 怖なってしもて。
しかし、強そうな鬼を見ると、怖くなってしまいました。

ほんでも せーだして 踊らな できもん むしくって くれんけん
それでも、頑張って踊らないと「コブ」を取ってくれないので、

おじいはんは 鬼の前に でていったんよ。
おじいさんは 鬼の前に出て行きました。

「よー きたねや」
「よく来たな」

鬼らは おじいはんみて さいあがりよるけん。
鬼たちは、おじいさんを見て、盛り上がっています

「今日も おもろい おどり すんぞ」
「今日も面白い踊り、踊ってくれよ」

ほやけど、鬼が怖い おじいはんは びびってしもて がいように おどれんけん。
だけど、鬼が怖いおじいさんは、恐怖を感じて、上手に踊れません。

「なんでや！ きにょうとは ぜんぜん ちがうげや！」
「なんだ! 昨日の踊りとは、ぜんぜん違うじゃないか!」

おじいはんの へこだすい おどりに 鬼も だんだん はがいたらし なってきて
おじいさんのしまりのない踊りに、鬼たちもだんだん腹が立ってきて、

「もう のいとれ！ おまえのー わしらは ぜーんぶ 知っとんぞ。
「もういい、下がれ! お前な、俺たちは全部知っているんだぞ。

おんしが 村で きざかい ばー しよんのを」
お前が村で、嫌がらせばかりしているのを。

こすい おじいはんも くちとがらして 鬼に ゆーたわね。
ずるいおじいさんも、不満そうに、鬼に言いました。

「わしも 踊ったんじゃけん！ できもん むしくって くれたら よかろげや！」
「わしも踊ったんだから、『コブ』を取ってくれたらいいだろう!」

「あんのー おじいはん。きにょうの おじいはんは まじめに しよるけん
「あのね、おじいさん。昨日のおじいさんはいつも真面目にしているから

むくって やったんじゃ。おんしみたいに ひねとる 奴のは もいじゃらん」
(コブを)取ってあげたんだ。お前のようにひねくれている奴は(コブを)取ってあげない」

こすい おじいはんも ががつよいけん 鬼に あくたいついて 言い返しよんよ。
ずるいおじいさんも、自己主張が強いので、鬼に強気で言い返しました。

「じゃかーしー！ できもん もがんかい！ くらっしゃげるぞお！」
「うるさい! コブを取れ!（取らないと）殴るぞ!」

「おまえ、だれに ものいよんぞお！すべった こっべった ゆうんじゃないんぞお！」
「お前、誰に向かって言ってるんだ。なんやかんや 言うんじゃない!」

鬼は 昨日 むしくった あんきな おじいはんの できもんを
鬼は、昨日取った気のいいおじいさんの『コブ』を

こすい おじいはんの 右のほっぺたに『ペターン！』ゆうて くっつけてしもた。
ずるいおじいさんの 右のほっぺたに『ペターン!』と、くっつけてしまいました

鬼も わざっと いがんで つけたけん また いなげに なってしもて。
鬼も意図的に、歪んで(コブを)つけたので、これまた変な付き方になってしまいました。

おじいはんは 半泣きになって
おじいさんは、半分泣きそうになりながら

「できもん とってんやぁ。たのまい。ちゃーんと するけん」
『『コブ』を取ってください。おねがいします。(今後は)生活態度を改めます」

鬼は おじいはんが やねこいの しっとるけん
鬼はおじいさんの性格が悪いことをお見通しなので、

「なにをじゃらじゃら おいべっさん。これまで なんしてきた おもとんぞ。
「おいおい、冗談はやめてくれよ。これまで何をしてきたのか、わかっているのか。

あんのー わしらは ちゃーんと 見とんぞ」
あのね、俺たちは(これまでの行動を)ちゃんと見てきているんだぞ」

両方のほっぺたに できもん つけた おじいはんは
両方のほっぺたに『コブ』をつけたおじいさんは

それから きざかいもせんと しょうらしいに なったけん。
それから、嫌がらせをすることもなく、真面目になりました。

ほんなこともあるんじゃねや。 見よる人は 見よらい。
そんなこともあるんですね。見ている人は、ちゃんと見ていますよ。

【本文内 赤文字 の解説】

まがる	邪魔になること。他に「触る」の意味で使う場合もある。 使用例「まがるねや」=邪魔だな「それにまがるな!」=それにさわるな!
仕事おいての	仕事を終わっての〜。使用例「今日はもうおかんかい」=「今日はもう、仕事を終わって帰りなさい」
ちゅうで	「暗記していること」の意味。 使用例「円周率は100桁までちゅうで言えるけん」
むしくって	「もぎとる」「皮を剥がす」的な意味。 使用例「かさぶた むしくったら 血がでたげや」
ちいとない	「しばらくして」「時間をおいて」また「時間をかけて〜」の意味も。 使用例「ちいとない、寝とかんかい」=「しばらく寝ていなさい」
すんぞ	「するんだぞ」の意味。言葉が省略されたものと思われる。
のいとれ	「その場から離れなさい」の強い言い方。「のく」=「外れる」
くらっしゃげるぞお	「くらしたろか」＝ の興奮した話し言葉。「殴る」よりも「ボコボコにしてやるぞ」の方が意味が近いかも。「クラッシャー」とは関係ない。
すべったこべった	とやかく言って、言い逃れすること。話の本筋をすらされたりした相手に向かって言ったりもする。
いなげに	「変に〜」の意味。「いなげなもの」で「変なもの」の意味となる。千葉市稲毛区とは全く関係がない。
やねこい	「するい」「いやらしい」の意。 「やにこい」では「しつこい」「粘着質」の意味となる。
なにをじゃらじゃらおいべっさん	本文にある通り、「冗談はやめてくれよ〜」の意味を持つ枕詞。「じゃらじゃら」は、「いいかげんな〜」、おいべっさんは「恵比寿様」。のこと。この接続された由来は不明。 昭和でいうところの「冗談はヨシ子さん」みたいなこと。

ニュアンスや発音等は、地域、性別、年代などで異なります。また地域、性別、年代などで使う言葉、使わない言葉もございます。

過去掲載分のPDFを
HPからダウンロードできます。

ホージャ 新居浜弁　検索